

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立高島小学校
校長 村中 寿幸

1 本年度の重点目標

15の春をみんなで考える
～よく聞き、よく考え、伝え合う力、そしてやり抜く力の育成～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力 の育成	確かな学力 の育成	アンケートで「先生や友だちの話を理解しながら聞いている」と答える児童の割合を低学年85%、中学年90%、高学年90%にする。	B	校内研修で進めてきた授業において交流の時間を設定する取組等を通して、児童が互いに理解を深める場を設けた。後期児童アンケート結果から、「先生や友だちの話を理解しながら聞いている」と回答した児童の割合が低学年で88.4%、中学年で76.1%、高学年で89.4%であった。	◎
	特別支援教育 の充実	校内支援委員会を年5回以上行い、全教職員の共通理解を図るとともに支援体制を整える。	A	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童(7名)全員の個別の指導計画を作成し、年5回の校内支援委員会で成果と課題、新たな支援策について見直した。新年度の引継ぎ資料としても活用した。	◎
	国際理解教育 の充実	外国語活動及び外国語の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を90%以上とする。	B	外国語活動においては退職教員等人材活用事業を、外国語については学園制加配活用事業(専科制加配)をそれぞれ活用し、体験活動を積極的に取り入れるなど取り組んできた。後期児童アンケート結果から、「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合が中学年で78.3%、高学年で82.4%であった。た。	◎
	理数教育 の充実	算数・理科の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を算数で90%以上、理科で95%以上とする。	B	学習支援加配事業や学園制加配活用事業(専科制加配)を活用し、習熟度別学習等に取り組んできた。後期児童アンケート結果から、「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合が算数で81.3%、理科で87.1%であった。	◎
	情報教育 の充実	保護者アンケートで「1日1回子どものスマートフォン等の利用状況を確認する」などSNSに関すること(高島小スマート1(ONE)の取組を含め)に、常に危機意識をもって対応していると回答する保護者の割合を80%以上とする。	A	参観日の際の全体懇談や学校だよりへの掲載等で啓発してきた。後期保護者アンケート結果では、「ご家庭では、交通安全やSNSに関すること(高島小スマート1(ONE)の取組を含め)に、常に危機意識を持って対応していると思いますか。」に、95.4%の保護者が肯定的に回答した。	◎
	キャリア教育 の充実	働く人の様子を学ぶ体験的な学習や、出前授業等を実施することで、児童アンケートにおいて「将来の夢や希望を持っている」と肯定的に回答する児童が80%以上を目指す。	A	1年生「おたる水族館」、2年生「町たんけん」「市立図書館」、3年生「栗原蒲鉾」、4年生「小樽市総合博物館」、5年生「CS知産志食」、6年生「租税教室(財務省出前授業)・硝子製作体験」などを実施した。後期児童アンケート結果から、「将来の夢や希望を持っている」と回答した児童の割合が86%となった。	◎
改善方策		①児童が学習をわかる・できるために、端的な指示の工夫や話を聞く意識の醸成に努める授業改善を推進する。②外国語活動や外国語の学習を充実させるため、ユネスコスクール指定校(H25～)として、小樽ユネスコ協会との連携による長期休業中の学習会や、ALTによる英語教育を全学年で実施するよう推進する。③学園制加配活用事業(専科制加配)指定校(R2～R4、R5～)を活用した教科担任制による授業を行うなど、理数教育の充実を図る。今後も北陸地区小中一貫の重点目標「15の春をみんなで考える」を達成するために、算数・数学、理科、外国語、総合的な学習の時間の単元配列表をもとに、9年間を見通した教育課程編成を進めることにより、基礎的な学力の向上に向けて一層の充実を図る。			
学校関係者評価 委員による意見		・「授業に参加し学習がわかる」ことが児童の一番の願いと考える。そのためにも学校は多忙な中で大変だと思うが、授業改善を一番の目標に据えて、高島の子どもたちの実態に即した授業に取り組み、学力の保障を図ってほしい。 ・これからも子どもたちが自立するための学力を身に付けていくための授業づくりにも励んでほしい。			
2 豊かな心 の育成	道徳教育 の充実	児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的な回答をした児童の割合を75%以上とする。	B	児童会、学級の係など学校生活における様々な活動を通じて、子どもに達成感を味わわせるとともに、教師・保護者が褒めたり認めたりすることで自己肯定感を高めてきた。後期児童アンケート結果から「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合が67.1%であった。	◎
	ふるさと教育 の充実	社会教育施設や学芸員等の外部講師を活用したふるさと教育をオンラインや出前授業も含め5回実施する。	A	2年生「市立図書館」、3年生「小樽市総合博物館」、4年生「屋形船体験」「高島越後盆踊り」、5年生「CS知産志食」、6年生「ガラス体験教室」「北海道の歴史(アイヌ文化)」など、7回実施した。	◎
	読書活動 の推進	児童アンケートにおいて、「読書が好きだ」という設問に、「とても好き」「まあまあ好き」と回答する児童の割合を60%以上とする。	B	日々の音読の取組をはじめ、児童会図書委員会やすくすく文庫ボランティアと連携し、ミニブックフェスティバルの開催や読み聞かせなどの取組により、「読書の楽しさ」を味わわせる機会を設けてきた。後期児童アンケートにおいて、「好き」「まあまあ好き」と回答する児童の割合が52.6%であった。	◎
	体験活動 の推進	ボランティア活動や体験活動を全学年で行う。	A	1年生「おたる水族館」、2年生「市立図書館(ワクワック号)」、「まち探検」、3年生「潮太鼓」「小樽市総合博物館」、4年生「小樽市総合博物館」「高島越後盆踊り」「下水処理場見学」、5年生「CS知産志食」「小樽自然の環境プログラム」、6年生「ガラス体験教室」「北海道の歴史(アイヌ文化)」など全学年で実施した。	◎
	コミュニケーション能力 の育成	児童アンケートにおいて、「誰とでも話し合えることができる」と肯定的に回答した児童の割合を95%以上とする。	B	校内研修で進めてきた授業における交流の時間を設定する取組等を通して、児童が互いに考えを伝える場を設けてきた。後期児童アンケートにおいて、肯定的に回答した児童の割合は76%であった。	◎
	いじめの防止や 不登校児童生徒 の支援の充実	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合を100%とする。	B	日々の生徒指導等において、いじめにつながる行為やする側される側の気持ちを考えさせるなどして伝えてきた。いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合は95.1%であった。	◎
改善方策		①自己肯定感を高めたり、話し合いの力をつけるためにも、コミュニケーション能力を一層高めることができるよう、毎時間の授業において端末を活用しつつ、今年度の研修の重点であった話し合いや交流の場面設定を意図的・計画的に取り入れていく。 ②いじめアンケートの回答では、3.4%の児童がよくわからないと回答している。これらの児童に対して、道徳の授業や学校生活の中でいじめ防止に対する意識を身につけさせていく。加えて、令和4年12月に新たに作成した「高島小スマート1(ONE)」について、保護者と学校が連携して取り組み、SNSによるいじめやトラブル等の早期発見・早期対応をすることで、いじめ防止と不登校の未然防止に繋げる。			
学校関係者評価 委員による意見		・SNSによるトラブル等をよく耳にする。学校だけで解決できる問題ではないが、引き続き家庭との連携を密にし、「高島小スマート1(ONE)」のさらなる浸透を含め、高島小の児童一人一人にとって「学校が安全な場所」となることを望む。 ・いじめはする側、される側と立場が皆違うので、ささいなことでも嫌だと思ってしまうことも多い。継続して指導していく必要がある。 ・自分のよいところを発見するのは、とても難しいと思う。日頃から保護者などが、些細なことでもほめてあげると、その子の自信にもつながります。 ・子どもたちの読書への興味や、図書館の充実のためにも、図書館司書の配置は重要。継続して関わっていくことで、魅力ある図書館づくりができ、子どもたちの利用回数も増えていくことにつながることで、読書への興味の高まりが期待できる。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	児童アンケートにおいて、「スポーツをしたり、体を動かすことが好きか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を95%以上とする。	B	後期児童アンケートにおいて、「スポーツをしたり、体を動かすことが好き」と肯定的に回答した児童の割合は90%であった。全校統一の「スキップ運動」や体育科授業の指導法工夫改善、休み時間に使用できるドッジボールコートや的当てコーナーの設置等を行った。	◎
		食育の推進	児童アンケートにおいて、「毎日、朝ご飯を食べていますか」という設問に、「食べている・ほとんど食べている」と肯定的に回答する割合を95%以上とする。	B	参観日の際の全体懇談や学校だより等での啓発等に取り組んだ。後期児童アンケートにおいて、「毎日、朝ご飯を食べている」と肯定的に回答した児童の割合が89.9%であった。	◎
		健康教育の充実	①外部講師による薬物乱用防止教室を第6学年で実施する。 ②養護教諭及び栄養教諭による授業を各学年1回以上実施する。	A	①11月29日に第6学年で小樽警察署署員を講師に実施 ②1・2年生(7月1日)、3年生(7月9日)、4・5・6年生(10月9)に栄養教諭が実施 1年生(1または2月に予定)、2年生(11月20日)、3年生(11月22日)、4年生(1または2月予定)、5年生(12月17日)、6年生(1または2月に予定)に養護教諭が実施	◎
改善方針		①「体力向上改善プラン」を見直し、年間を通じて体育科授業における「1単位時間における十分な運動量の確保」と「休み時間等の工夫」に取り組む。特に運動量が低下する冬季間において、全校統一して授業及び休み時間に運動量を低下させない取組(例:今年度は反復横跳び自己記録更新会)を行う。また、今年度から新たにグラウンドにドッジボールコートや的当てコーナーを設置したように、児童が休み時間に活用できる場の提供を次年度も実施する。 ②今年度の北陵地区合同CS会議にて、「早起き・早寝・朝ご飯」に代表される生活習慣をテーマとして、保護者、地域、学校がどのように関わることができるかを協議した。今後もPTAや地域と連携しながら、児童の健やかな成長について推進していく。				
学校関係者評価委員による意見		・スポーツ少年団等で体を動かす児童とそうでない児童の二極化が顕著な中で、学校体育の在り方が難しくなってきていると感じる。その中において、「スキップ運動」やドッジボールコート等学校オリジナルの取組により、運動に対する興味・関心や意欲を高める工夫に感心する。 ・スキップ運動はとてよいのでぜひ続けてほしい。持久力も付くし、運河ロードレースにもつながることが期待できる。 ・朝食に関しては、家庭の事情もあるので、学校だけの改善は難しいと考える。今後も家庭との連携を模索していくことが大切。 ・体を動かす機会を増やすために、地域と連携してグラウンドの活用を考えていってほしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケートにおいて、「生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん・帰宅時刻や就寝時刻等)が身につくよう努めている」と肯定的に回答する割合を90%以上にする。	B	学校だより等での啓発や、8月26日から9月6日及び1月15日から1月31日に全学年において生活リズムチェックシート(chromebook版)を実施し、自己管理能力の育成に努めた。保護者アンケートにおいて、「生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん・帰宅時刻や就寝時刻等)が身につくよう努めている」と肯定的に回答する保護者が88%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	児童の読書習慣定着に向けて、地域団体と協働的に取り組み、「(ミニ)ブックフェスティバル」を年1回以上開催する。	A	今年度も読み聞かせサークル「すくすく文庫」を月1回定期開催し、1・2年生の希望する児童が参加した。また、9月19日に高島小ミニブックフェスティバルを開催することで子どもたちの読書への関心を向上させた。	◎
改善方針		児童の規則正しい生活リズムの確立を目指して、引き続き、PTAや中学校区、CSとの協力など、これまでの啓発とともに学校や保護者、地域と連携しながら進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		・「すくすく文庫」など、長く続いている事業を大切にしたい。児童数の減少や地域の高齢化の進行により、地域との連携が難しくなってきている中において、学校の取組についてのさらなる積極的な情報発信の必要性を感じる。 ・「すくすく文庫」の取組が子どもを楽しませる場になっていてよいので、今後も続けてほしい。 ・「ミニブックフェスティバル」は、会場を広くするとより楽しめると思ったので、次年度に検討してみたい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫で取り組んでいる11スキルについて、児童アンケートにおいて全項目に肯定的な回答を80%以上にする。	B	小中一貫合同会議で11スキルについて「時間を守る」「人の話を最後まで聞く」など重点を決め取り組んだ。児童アンケートでは、11項目中、低学年が9項目、中学年が7項目、高学年が8項目において80%以上の肯定的回答があった。	◎
		教育環境の整備・充実	児童アンケートにおいて、「クロームブックを使った勉強は、楽しいですか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。	A	研修部が中心となりミニ研修等を実施したほか、各教科等で活用できるICT教材情報を発信した。さらにGIGAスクール支援事業者によるミニ研修でCanva等の利活用について学んだ。それらをもとに各教科等において、全学級でICT機器の活用に取り組んだ結果、児童アンケートにおいて、「クロームブックを使った勉強は、楽しいですか」という設問に、肯定的に回答した児童の割合は低学年が94.9%、中学年が93.5%、高学年が96.5%であった。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全学年での各教科における研究授業を行うとともに、教職員の資質・能力の向上へ向けたミニ研修会を3回以上実施する。	A	全学年での研究授業を実施したほか、ICT機器の利活用について、ヤングケアラーについて、スクールカウンセラーによるミニ研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図った。	◎
		学校運営の改善	毎月四役会を開催することで校長、教頭、教務主任、事務主任が一体となって学校経営を推進することにより、一層主体的、効率的な各分掌業務を推進させる。	A	教頭、教務主任、事務主任が連携することで、組織的・効率的な分掌業務の遂行につながっている。また校務用パソコン(C4th)を活用し、連絡等の情報を全てネットワーク上で対応することで、職員会議で扱う内容を全てデータ化、内容の精選、時間短縮を図ることができた。	◎
		学校安全教育の充実	保護者アンケートにおいて、「学校は、子どもたちの安全を守る取組(交通安全指導、集団下校等)を適切に行っている」と肯定的に回答する割合を90%以上にする。	A	保護者に交通安全指導の協力を仰ぐなど、学校だけでなく、保護者や地域とともに取り組んだ。保護者アンケートでは、「学校は、子どもたちの安全を守る取組(交通安全指導、集団下校等)を適切に行っている」と肯定的に回答した保護者が95%だった。	◎
改善方針		小中一貫教育の取組の一つである小学校11、中学校12SKILLについて、保護者アンケートや12月13日に実施した北陵地区合同CS会議での意見等を反映させ、次年度の北陵地区小中一貫教育のGD及び3校のGD、そして学校経営方針の作成を進める。				
学校関係者評価委員による意見		・北陵地区小中一貫教育について、各校の児童生徒の現状把握を大切にしながら、各校の実態に合った無理のない範囲での取組を継続できるよう望む。 ・小小連携も含めて、互いのよいところを生かして中学校へ進学することができればよい。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館や博物館を利用した学習を3つの学年以上で実施する。		A	2年生「市立図書館」、3年生「小樽市総合博物館」、4年生「小樽市総合博物館」、6年生「北海道博物館」「国立アイヌ民族博物館(ウポロイ)」など、4つの学年で実施した。	
改善方針		引き続き、小樽市博物館・市立図書館をはじめとする市内文化施設を活用した学習に取り組むとともに、CS、PTAとの連携により小樽運河ロードレース練習会及び大会への参加、向井流水法会に方にご協力をいただき、高学年の水泳学習における水法の指導を実施していく。				
学校関係者評価委員による意見		・「ふるさと小樽」に愛着と誇りをもつためにも、地域資源を有効に活用した学習活動を期待する。 ・様々な施設を活用し、学習を深めているのがよいので、継続してほしい。				